

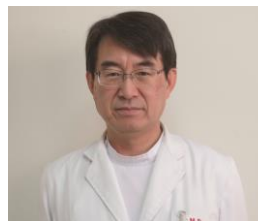
□発行 公立小野町地方総合病院
〒963-3401 福島県田村郡小野町大字小野新町字槻木内6番地2
TEL(0247)72-3181 FAX(0247)72-3837



おかげさまで、新病院が 1周年を迎えました。

平成27年3月の開院から、おかげさまで1周年を迎えました。これもひとえに地域住民や関係者の皆様のお陰と深く感謝しております。これからも、地域に根差した病院を目指して頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。

新病院開院から1周年を迎えて



公立小野町地方総合病院企業団

企業長 藤井 文夫

平成27年3月の開院から、おかげさまで1周年を迎えました。これもひとえに地域住民や関係者の皆様のお陰と深く感謝しております。

当病院は、小野町、田村市、平田村、川内村及びいわき市を構成団体とする総合病院として昭和29年に開院し、以来、地域に密着した公的医療機関として地域医療の中核的な役割を担ってまいりました。

しかし、平成23年3月11日に当地方で震度6弱を観測した東日本大震災により、病院建物は甚大な被害を受け、一時診療行為の継続が困難な状況が余儀なくされ、地域中核病院として機能が損なわれる事態となりました。さらには、耐震診断において倒壊の危険性が指摘され、早急に建物の整備が必要となり、新病院建設に向け財源確保が必要となりました。

こうした状況で、具体的な財源措置が見つからないなか、公益財団法人ヤマト福祉財団の「東日本大震災 生活・産業基盤復興再生募金」から新病院建設費用として多大な助成金を賜ることができ、更には、東日本大震災、特に原子力災害の影響から医療の復興に取り組むため、福島県が策定した「福島県浜通り地方医療復興計画」において当病院が施設整備支援の対象として位置づけられたこともあり、新病院建設をすることができました。

新病院は、地上四階建て、延べ床面積8620.68平方メートルで、入院機能は119床を確保し、1階部分には外来診察に関連する、薬局、検査室、放射線室などを集約し、受診時の患者さんの負担が少ない動線になっています。加えて、大震災の経験を生かし、災害時においても安定的な医療提供を可能とするため、ライフラインの多重化や、1階待合をトリアージスペースとして活用出来るよう設計されております。

新病院が本格稼働した27年度は、福島県並びに福島県立医大からの支援により、常勤医師の確保が図られたこともあり、入院・外来ともに患者数が増え、特に外来患者数については大きな伸びを示し、新しい施設でより多くの皆様にご来院いただいております。また、新病院開院に合わせまして、患者送迎バスの運行日数及び回数を拡充図ったところであり、ハード面では地域にないMRI装置の設置、新たな透析装置の導入などの整備を行い、今後は総合相談業務の充実など、ソフト面におきましても更なる利便性の向上に努めております。

引き続き、地域の皆様に一層信頼される病院を目指して職員一同努力して参りますので変わらぬご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

施設紹介

□ 外観

建物は鉄骨造で耐震構造の地上4階建てとなっております。また、患者さん用の駐車場は79台のスペースを確保しております。



南西側外観



南側外観

□ 病室

病室は個室、2床室、4床室、特室で構成し、ベッドスペースを可能な限り広く確保した計画としています。2床室、4床室には、間仕切り家具を設け、十分な収納スペースの確保や、プライバシーに配慮した環境を用意しております。



特室



4床室

□ 待合室

災害時には、中央待合室、外来待合室をトリアージスペースとして活用できるよう計画されております。



中央待合室

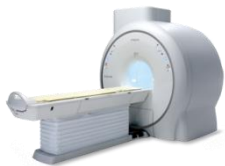


外来待合室

医療機器紹介

□ 当病院で導入している医療機器をご紹介します。

磁気共鳴画像診断装置 (MRI)



日立社製の1.5TのMRIを導入しております。

X線透視診断装置



日立社製のフルデジタルX線透視診断装置を導入しております。

乳房X線撮影装置 (マンモグラフィ)



日立社製のフルデジタル乳房X線撮影装置を導入しております。

ハイビジョン内視鏡システム



オリンパス社製のハイビジョンビデオスコープを搭載した内視鏡システムを導入しております。

多人数用透析装置



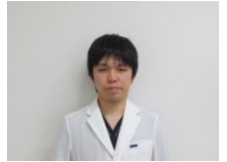
日機装社製の多人数透析装置を導入しております。

・・・病気のはなし・・・

脂質異常について

— 内科医師 舟窪 彰 —

健康診断の結果で脂質異常を指摘されたけれど、特に自覚症状が無いから、いまいちピンときていない、そんな方が多いのではないのでしょうか。しかし、脂質異常を放っておくと血液がドロドロになり、余分なコレステロールが血管の壁にこびりつき、血管の内腔が狭くなってしまふ、いわゆる動脈硬化をきたし、心筋梗塞などの重大な病気につながるということが知られています。それではどうすればよいのでしょうか。脂質異常症の治療には、お薬による治療以上に生活習慣の改善が重要視されています。適度な運動に加え、食生活を見直すことが脂質異常症の改善に有効であるという研究結果があります。具体的には、30分程度のはや歩きを週に3回といった程度でよいのです。食事については、脂っこいお肉やバター・クリームなどは避け、緑黄色野菜や脂身の少ないヒレ肉やモモ肉を食べてください。その他、魚や大豆製品、玉ねぎ、にんにくなども血液をサラサラにする働きがあるとされています。



乳がんについて

— 外科医師 阿部 貞彦 —

乳がんは食生活の欧米化に伴い、日本でも著しく増えている病気です。女性の20人に1人は乳がんになると言われ、乳がんによる死亡数も昭和60年の4,922人に対し、平成26年には13,323人と右肩上がりの状態が続き30年間で3倍近くになっています。

乳がんは発見された時の進行具合により、その治療成績が左右されます。早期では100%に近い生存率が期待でき、乳房を残す治療も可能です。一方、進行した状態であると5年生存率はおよそ半分の50%になります。ここから、乳がんは早期に発見することが大事だとわかります。乳がん検診で用いられるマンモグラフィ検査は、乳がんの死亡率を下げる根拠があると証明されたものです。検診で発見される乳がんの約70%は早期がんで、症状のないものも多く発見することができます。乳がんにかかりやすい要因として、出産経験がない、高齢初産、初経が早い、閉経が遅い、過体重や肥満、血縁者が乳がんにかかったことがあるなどが挙げられます。しかし、誰でも乳がんになる可能性はあります。「自分には関係ない」と決めつけず、定期的に検診を受け、自分の身体に関心をもつようにしましょう。

